

森園・ヒケシマ遺跡

大野城市文化財調査報告書

第74集

2007

大野城市教育委員会

序

大野城市は福岡平野の一部にあります。市の北部には乙金古墳群、中央部には特別史跡水城跡、そして南部には牛頸窯跡群などがある、文化財の豊富な街です。森園遺跡は市名の由来となった特別史跡大野城跡のある四王寺山の麓に、ヒケシマ遺跡はさらにそこから御笠川までゆるやかに下る平地に営まれていました。いずれも弥生時代の遺跡で、特に森園遺跡ではこれまでの発掘調査の結果、弥生時代の墓地や竪穴住居跡、数多くの祭祀のための土器等が見つかります。

今回ご報告するのは、平成9年度に実施した森園遺跡の発掘調査と、平成14年度に実施したヒケシマ遺跡の範囲確認調査の結果です。本報告書によって調査成果が広く世に知られ、地域の歴史の解明に役立ち、また、活用されることを願っております。

最後になりましたが、調査に際しご協力を賜りました土地所有者をはじめとする関係各位に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

平成19年9月14日

大野城市教育委員会
教育長 古賀 宮太

例 言

- 1 本書は、大野城市教育委員会が国・県費補助を受けて実施した、森園遺跡の発掘調査およびヒケシマ遺跡の確認調査の報告である。
- 2 森園遺跡発掘調査は平成9年度、ヒケシマ遺跡確認調査は平成14年度に実施したものである。
- 3 遺物写真は岡紀久夫（埋蔵文化財写真研究会会員）が撮影した。
- 4 遺物の実測は城門義廣が行った。
- 5 製図は渡部美香が行った。
- 6 遺物番号は通し番号とし、図版と挿図の番号を統一した。
- 7 第1図で掲載した地図は、国土地理院発行の地形図福岡南部を使用したものである。
- 8 本書の執筆、編集は徳本洋一が担当した。

本文目次

I	はじめに	1
II	位置と環境	2
III	調査の結果	6
	1 森園遺跡	6
	2 ヒケシマ遺跡	7
IV	まとめ	8

図版目次

図版 1	(1) 森園遺跡全景 (北から)
	(2) 森園遺跡全景 (南から)
図版 2	(1) ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ①遺構検出状況
	(2) ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ②遺構検出状況
	(3) ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ③遺構検出状況
図版 3	(1) ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ③遺構検出状況
	(2) ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ⑤遺構検出状況
	(3) ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ⑤遺構検出状況
図版 4	ヒケシマ遺跡確認調査出土遺物

挿図目次

第 1 図	周辺遺跡分布図(1/25000)
第 2 図	森園・ヒケシマ遺跡の調査箇所 (1/5000)
第 3 図	森園遺跡遺構配置図 (1/100)
第 4 図	ヒケシマ遺跡範囲想定図 (1/1000)
第 5 図	ヒケシマ遺跡確認調査出土遺物実測図 (1/3)

I はじめに

1 発掘調査の経緯

福岡県教育委員会が1980年に作成した「福岡県遺跡等分布地図」には、森園遺跡が190118番、ヒケシマ遺跡は190120番として登録されている。森園遺跡の発掘調査は、昭和61年度から数次かつ数年度に渡って行われ、弥生時代の墓地・竪穴住居跡、古墳時代の竪穴住居跡、平安時代の墓地などが確認された（註1）。今回報告するのは、個人専用住宅の建設にあたって平成9年度に実施した発掘調査の結果である。一方ヒケシマ遺跡の発掘調査は昭和59年度と平成元年度の2回行なわれ、弥生時代の墓地・竪穴住居跡などが確認された（註2）。今回報告するのは、会社社屋建設に際して平成14年度に実施した遺跡範囲確認調査の結果である。

註1 大野城市教育委員会『森園遺跡Ⅰ』（大野城市文化財調査報告書第26集 1988）

大野城市教育委員会『森園遺跡Ⅱ』（大野城市文化財調査報告書第55集 1999）

註2 大野城市教育委員会『ヒケシマ遺跡』（大野城市文化財調査報告書第67集 2005）

2 調査体制

調査の体制

森園遺跡発掘調査、ヒケシマ遺跡確認調査は以下の体制で行った。

森園遺跡発掘調査（平成9年度）

大野城市教育委員会	教育長	堀内 貞夫
	教育部長	香野 信儀
	社会教育課 課長	赤星 健彦
	同 係長	舟山 良一
	同 主任技師	向 直也
	同 主任技師	徳本 洋一（調査担当）
	同 主任技師	石木 秀啓
	同 技師	丸尾 博恵
	同 嘱託	西村 晴香

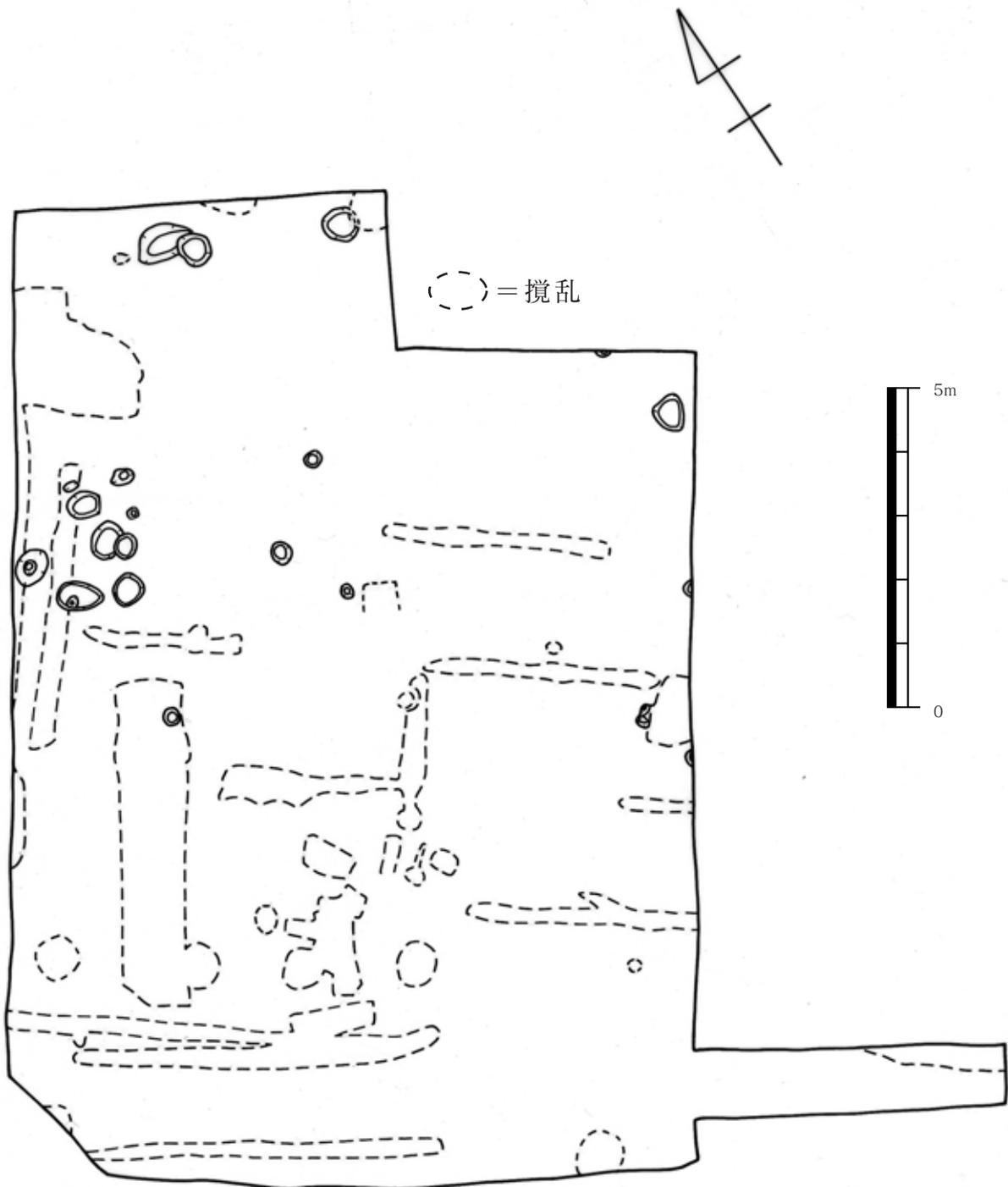
ヒケシマ遺跡確認調査（平成14年度）

大野城市教育委員会	教育長	堀内 貞夫
	教育部長	鬼塚 春光
	社会教育課 課長	秋吉 正一
	同 係長	舟山 良一
	同 主査	徳本 洋一（調査担当）
	同 主任技師	石木 秀啓
	同 主任技師	丸尾 博恵
	同 主任技師	林 潤也
	同 主任主事	大道 和貴
	同 嘱託	平島 義孝
	同 嘱託	岸見 泰宏
	同 嘱託	島田 拓
	同 嘱託	上田 恵



第1図 周辺遺跡分布図 (1/25000)

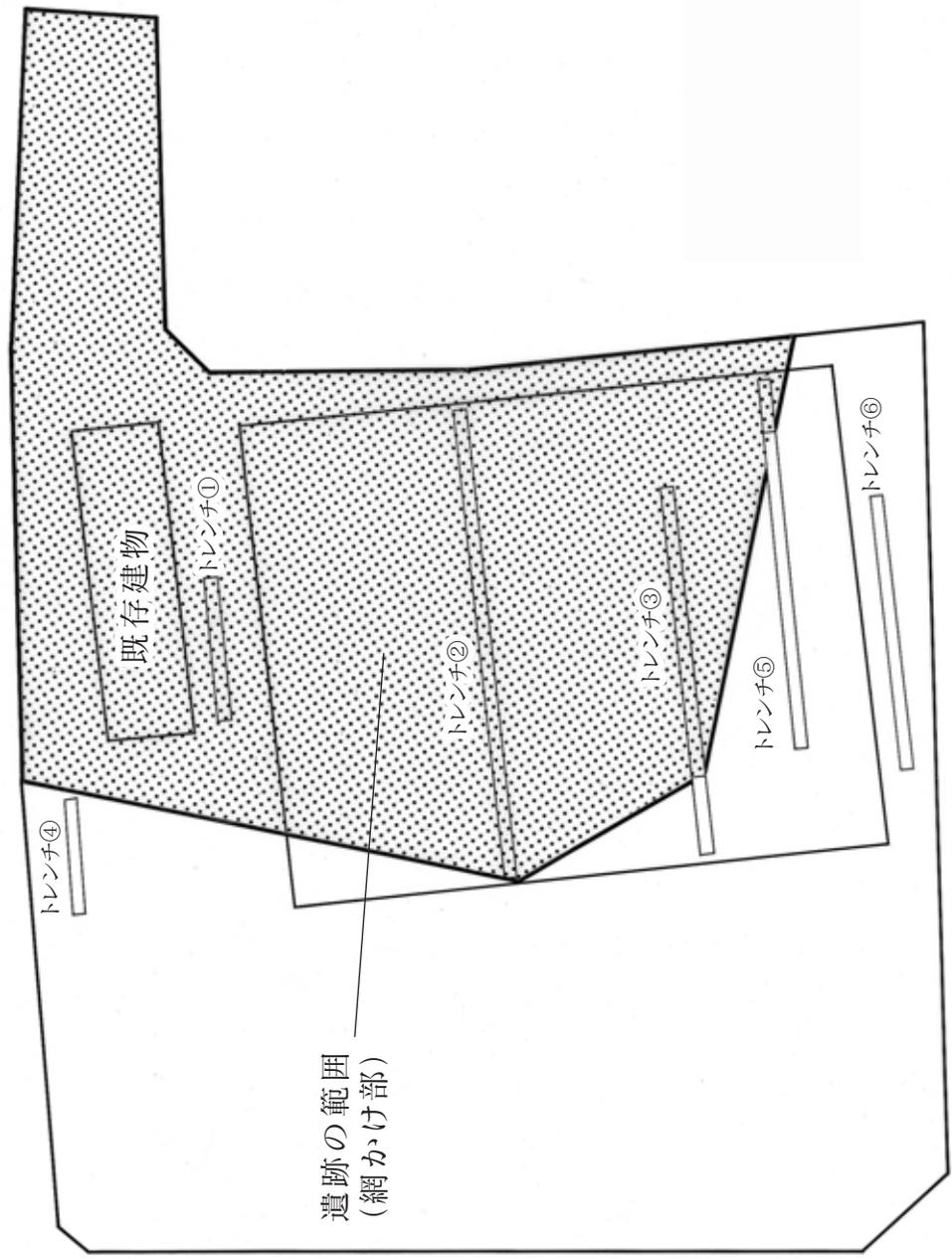
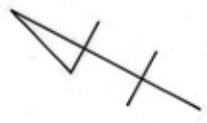
1. 仲島本間尺遺跡 2. 仲島遺跡 3. 井相田遺跡 4. 川原遺跡 5. 持田ヶ浦古墳群
6. 御陵古墳群 7. 喜一田古墳群 8. 王城山古墳群 9. 古野古墳群 10. 森園遺跡
11. 中・寺尾遺跡 12. ヒケシマ遺跡 13. 村下遺跡 14. 雑餉隈遺跡 15. 石勺遺跡
16. 駿河遺跡 17. 瑞穂遺跡 18. 原ノ畑遺跡 19. 笹原古墳 20. 成屋形古墳
21. 九州大学構内遺跡 22. 唐土遺跡 23. 谷川遺跡 24. 梅頭窯跡
25. 上大利北土地区画整理地内遺跡群 26. 上園遺跡 27. 水城跡 28. 島本遺跡
29. 神ノ前遺跡 30. 上大利南土地区画整理地内遺跡群



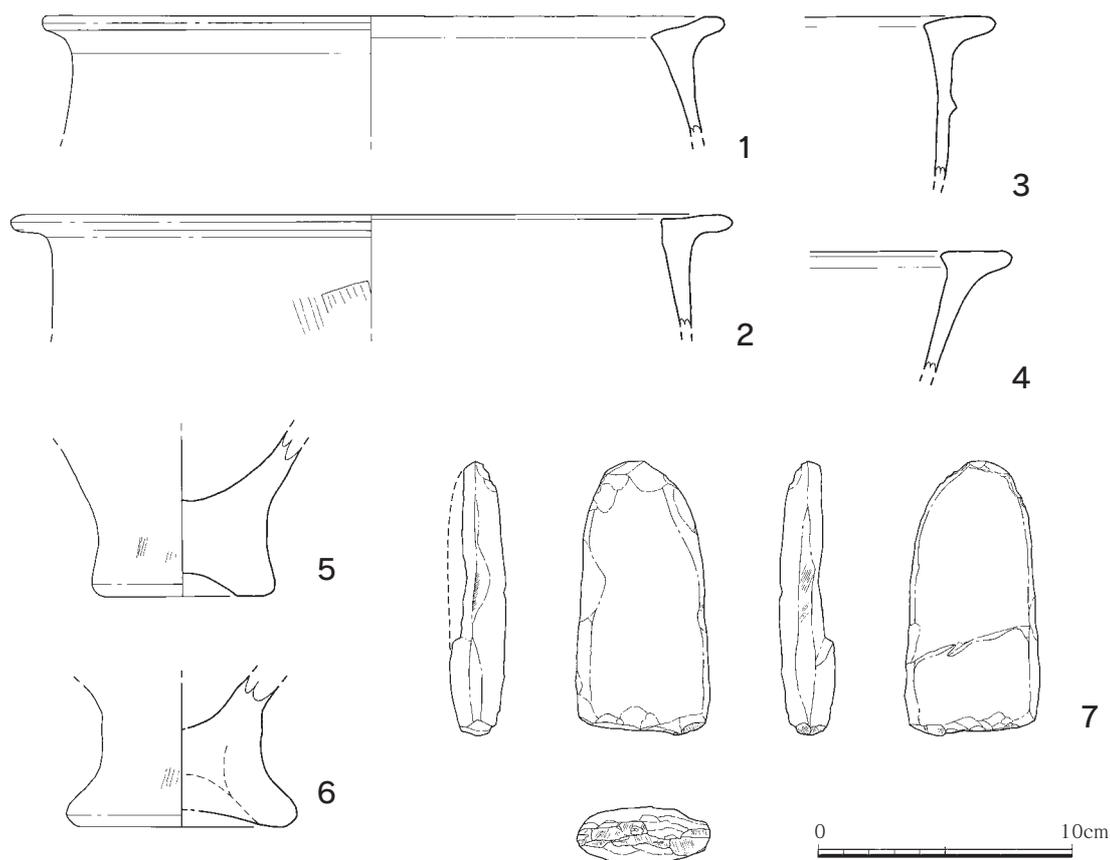
第3図 森園遺跡遺構配置図 (1/100)

池を挟んですぐ南側にある標高26m~28mほどの小丘陵上には、弥生時代の墓地と集落跡で知られる中・寺尾遺跡がある。これら三遺跡は、現状では道路や宅地、水田などにより分断されているが、元来は一連の遺跡であったものと考えられている。

周辺のやや広い範囲に目を向けてみると、これら三遺跡の西側には御笠川をこえて平地が展開しており、石勺遺跡、村下遺跡など弥生時代の集落跡が見つかっている。また、東側の山麓には大城山古墳群、喜一田古墳群、北側の山麓には御陵古墳群、持田ヶ浦古墳群などの古墳群がある。さらに最近森園、中・寺尾遺跡が位置する小丘陵の基部では中世の遺跡が見つかっており、山



第4図 ヒケシマ遺跡範囲想定図 (1/1000)



第5図 ヒケシマ遺跡確認調査出土遺物実測図（1/3）

麓・丘陵基部・丘陵端部・平地それぞれの土地利用の様相が明らかになってきている。特に丘陵基部については総面積42haの土地区画整理事業が予定されており、これにともなう調査によってさらに詳細な状況が明らかにされることが期待される。

Ⅲ 調査の結果

1 森園遺跡

調査地は大野城市川久保三丁目298 - 1、298 - 8に位置する。標高約27mの微高地で、試掘調査の結果遺跡であることがわかった場所である。その北西約120mの位置にある(株)九州電力南福岡変電所（通称中変電所）は、以前から森園遺跡として知られており、前述のとおりその年代は弥生時代を中心として平安時代まで及んでいることが判明している。さらに今回調査地の西側隣地でも、試掘調査の結果遺構が確認されている。これらのことから、今回調査地についても、中変電所から連続する森園遺跡の一部であると想定された。

発掘調査は、平成9年9月13日から10月8日にかけて行われ、調査面積は約150㎡であった。調査地はすでに削平・攪乱を受けており、遺構の残存状況は悪かった。特に調査区の南半部では

削平・攪乱が著しく、遺構が残っていない状態であった。検出されたのはすべてピットで、23基を数えた。それらのほとんどが、上端直径20cm～60cm・深さ6cm～28cm・平面プランは円形を呈するもので、平面プランが楕円形のものも検出された。掘立柱建物跡などとしてまとまるものはなかった。

遺物は、ピットの埋土中から弥生土器の小片が若干と、遺構検出面から黒曜石の剥片が1点出土した。この剥片は、石器製作の途中で生じたものと考えられる。いずれも小片のため図示することができなかった。

2 ヒケシマ遺跡

調査地は大野城市御笠川四丁目13-1に位置し、調査対象面積は約15,000㎡であった。地形的には御笠川西岸の沖積地に立地し、標高は19m前後を測る。その東側にはヒケシマ遺跡が広がっており、昭和59年度と平成元年度に発掘調査が行われた。一方西側については、かつて福岡都市高速道路建設に先立って行った試掘調査の結果、遺構・遺物はいずれも見つかっておらず、遺跡がこの場所までは及んでいないことが判明している。このことから、調査地の範囲内でヒケシマ遺跡の西端部が検出できるものと予想された。

確認掘調査は、地所有者である株式会社三和シャッターの新社屋建設に先立って実施したものである。平成15年3月3日・4日の二日間で、バックホーを用いて第4図に示した通り6本のトレンチを設定した。その結果は以下の通りであった。

トレンチ①

地表下約190cmまで掘り下げたところでやや灰色がかった黄白色の土層に至り、その上面で遺構を検出することができた。

トレンチ②

地表下約190cmまで掘り下げたところでやや灰色がかった黄白色の土層に至り、その上面で遺構を検出することができた。

トレンチ③

地表下約190cmまで掘り下げたところ、東端より約40mまではやや灰色がかった黄白色の土層に至り、その上面で遺構を検出することができた。それより西側の部分にはヘドロ状の黒色泥土が堆積しており、遺構を検出することはできなかった。

トレンチ④

地表下約190cmまで掘り下げたが、ヘドロ状の黒灰色泥土のみが堆積していた。さらに掘り下げたが状況は変わらず、遺構を検出することはできなかった。

トレンチ⑤

地表下約190cmまで掘り下げたところ、東端より約7mまではやや灰色がかった黄白色の土層に至り、その上面で遺構を検出することができた。それより西側の部分では遺構を検出することはできなかった。

トレンチ⑥

地表下約190cmまで掘り下げたが、ヘドロ状の黒灰色泥土のみが堆積していた。さらに掘り下げたが状況は変わらず、遺構を検出することはできなかった。

遺構検出面までが現地表面から190cmと深かったため、安全を考えてトレンチ内部での壁面清掃・土層観察、あるいは検出遺構の掘り下げ等の作業は行わなかった。そのため、検出遺構の詳細な時期を決定することはできなかった。遺物はすべて包含層から出土し、出土量はパンコンテナ1箱弱であった。それらのうち図示できるものを第5図と図版4に示している。

IV まとめ

1 森園遺跡

出土した土器が小片であったため詳細な時期を特定することはできなかったが、検出された遺構が弥生時代に属することは間違いない。また、すでに述べたような位置関係からも、今回調査地は中変電所から続く森園遺跡の一部であると考えられる。調査地の位置する微高地が東側へ延びているため、森園遺跡についてもさらに東側へ展開していることが想定される。

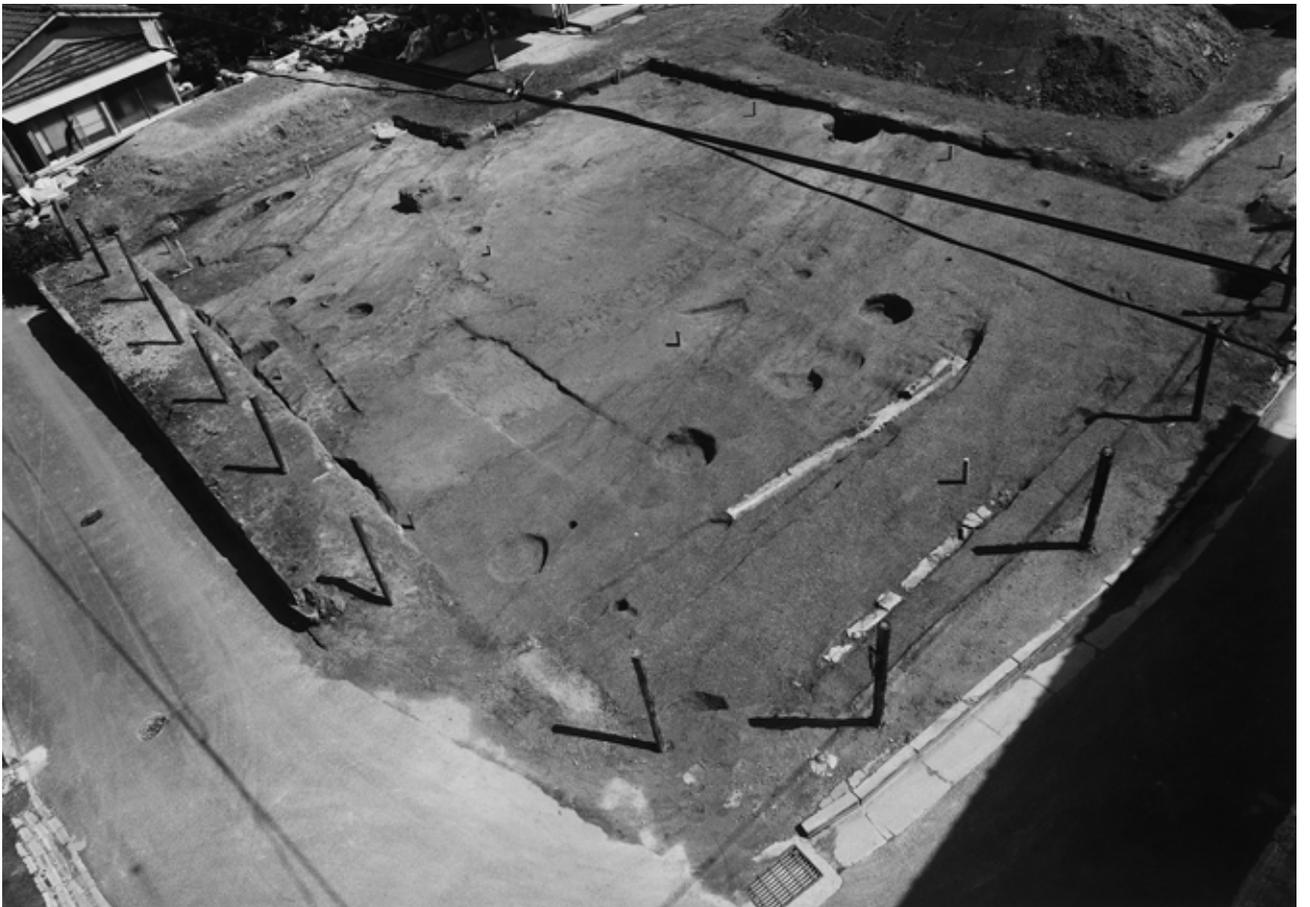
2 ヒケシマ遺跡

今回の確認調査の結果、及び前述した過去の試掘調査結果から、ヒケシマ遺跡の西端の一部について第4図の通り想定することができた。トレンチ内の土層の状況から、これより西側は御笠川の氾濫原であると思われるため、御笠川の水際近くまで遺跡が展開していた可能性が高い。「位置と環境」の項で述べたとおり、中・寺尾遺跡、森園遺跡、ヒケシマ遺跡が本来一連のものであったとすれば、その西端の一部を検出することができたこととなる。

圖 版



(1) 森園遺跡全景（北から）



(2) 森園遺跡全景（南から）

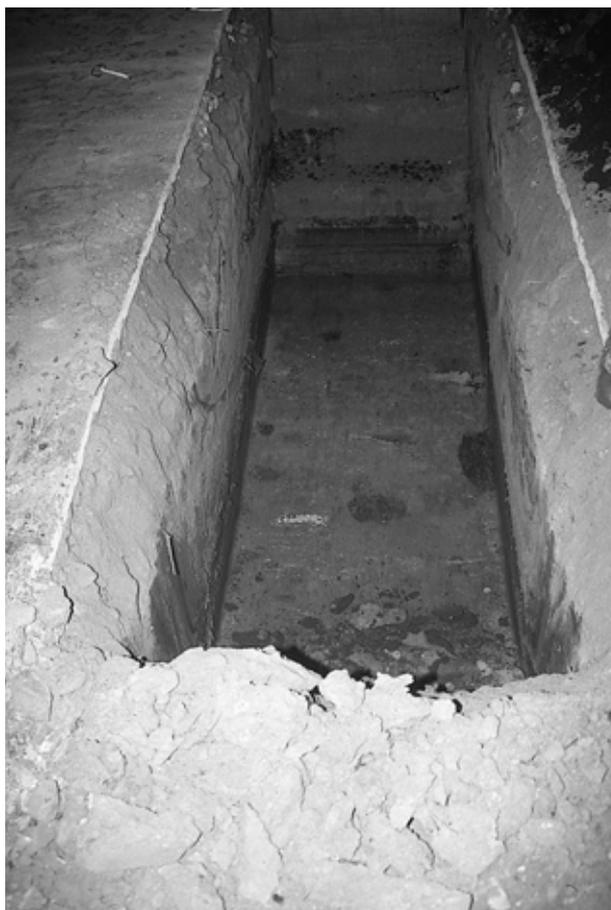
図版2



(1)ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ①遺構検出状況 (2)ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ②遺構検出状況



(3)ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ③遺構検出状況

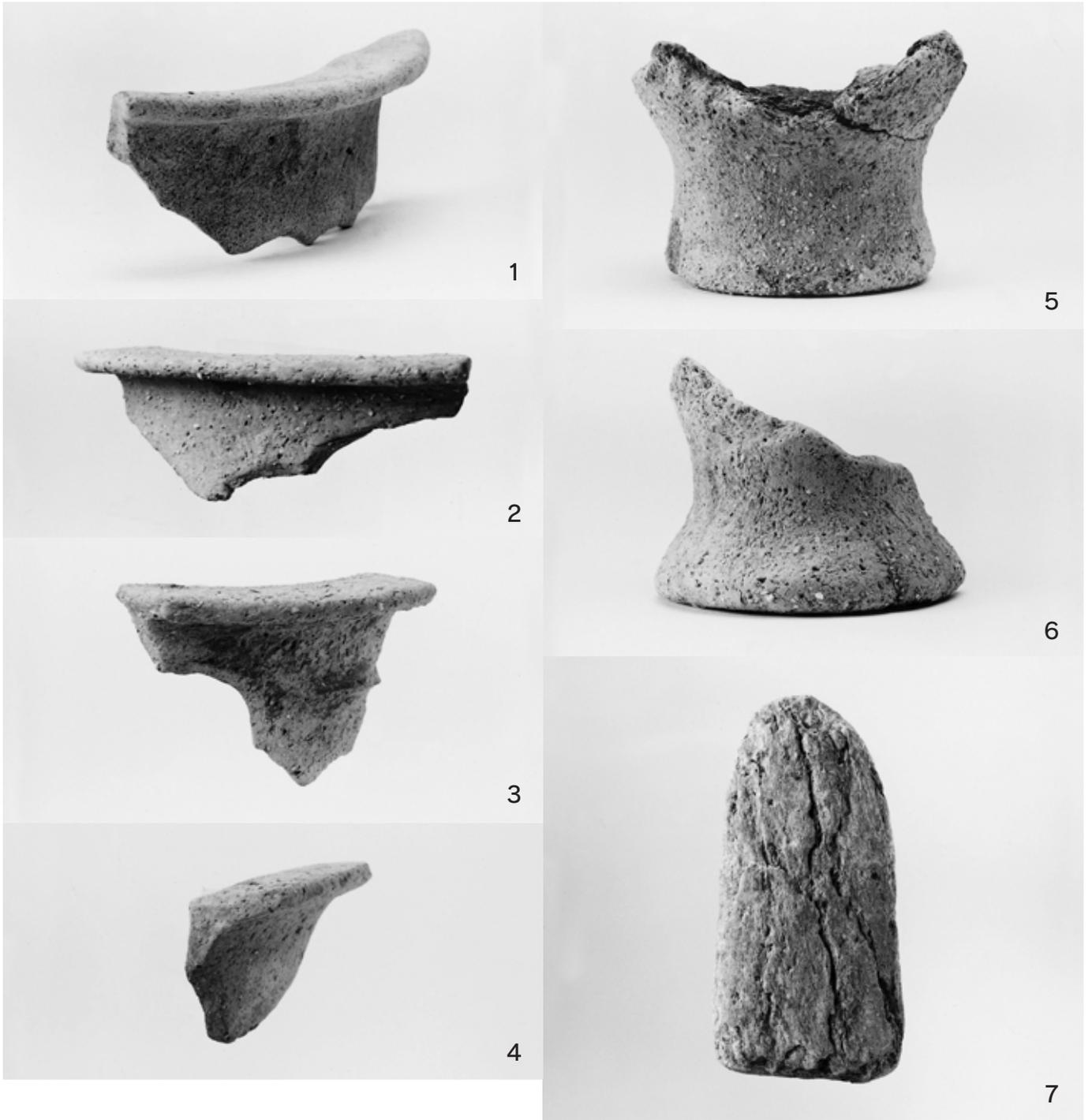


(1)ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ③遺構検出状況 (2)ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ⑤遺構検出状況



(3)ヒケシマ遺跡確認調査トレンチ⑤遺構検出状況

図版4



ヒケシマ遺跡確認調査出土遺物

報告書抄録

ふりがな	もりぞの・ひけしまいせき							
書名	森園・ヒケシマ遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第74集							
編著者名	徳本 洋一							
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-0811 福岡県大野城市曙町二丁目2-1 ☎092-501-2211							
発行年月日	2007年9月14日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もりぞの いせき 森園遺跡	ふくおかけん 福岡県 おおのじょうし 大野城市 かわくぼ 川久保			33° 31' 50"	130° 29' 21"	1997.9.13) 1997.10.8	約150㎡	個人住宅建設
ひけしま いせき ヒケシマ遺跡	ふくおかけん 福岡県 おおのじょうし 大野城市 かわくぼ みかきがわ 川久保・御笠川			33° 31' 50"	130° 29' 01"	2003.3.3) 2003.3.4	約260㎡	社屋建設
所収遺跡名	種名	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
森園遺跡	集落	弥生時代		ピット		弥生土器 石器		
ヒケシマ遺跡	集落 墓地	弥生時代				弥生土器 石器		

大野城市文化財調査報告書 第74集

森園・ヒケシマ遺跡

平成19年 9月14日

発行 大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 井上紙工印刷株式会社
福岡県朝倉市持丸625-1

